

宗教部ニューズレター

ごあいさつ

平素より宗教部の活動にご理解・ご協力頂きありがとうございます。

この度、宗教部では、学内キリスト教活動の紹介と理解をはかるため、「ニューズレター」の発行にチャレンジしました。今後これが宗教部と学生、教職員の皆様との良い「橋渡し」になることを期待しております。

宗教部長 青野 和彦

★学生宗教委員会「HOPE」の活動紹介★



▲学生企画礼拝の様子



▲松下訪子さん



▲学生宗教委員「HOPE」主催のスポーツ大会

学生宗教委員会は、毎週月曜日の昼休みに昼食を取りながらミーティングを行っています。

毎週の月曜礼拝の奉仕やその他イベントの企画や学内への広報などを話し合いながら、楽しく過ごしています。また、オープンキャンパスの時期にはコイノニアサークルと合同で、讃美歌などの練習もしています。

今年度は、新入生が今まで教会や礼拝との交わりがあまりなかった友達を連れてきてくれるなど、キャンパス内で少しずつですが、交流の輪を広げています。

夏休みにはサマー聖書キャンプも予定しています。ぜひ興味のある方はチャペルまで足を運んでみてください。みなさんと新たな交わりが持てることを学生宗教委員会「HOPE」のメンバーは楽しみにしています。

松下訪子（学生宗教委員長／保育科2年次）

★宗教部活動報告★

●前期キリスト教週間【2013年4月21日（月）～25日（金）】

前期キリスト教週間の期間中、キリスト教講演会ははじめ、「Discovering the Bible」、新入生歓迎ランチ会等のプログラムを行いました。



▲Discovering the Bible



▲キリスト教講演会 講師：仲里 和花 先生



▲新入生歓迎ランチ会

●短大英語科・保育科「新入生オリエンテーション」(4月4日)

宗教部は標記オリエンテーションで、「開会礼拝」と「閉会礼拝」を担当しました。

まず、「開会礼拝」は、金城重明先生(本学第三代学長・名誉教授)による「建学の精神」と題する講演を中心に実施しました。金城先生は、短時間(約25分)の講演の中で渡嘉敷島でのご自身の「集団強制死」(集団自決)の体験を簡潔に紹介された後、本学の建学の精神にふれられました。金城先生によると、本学の建学の精神は「キリスト教による人間教育」にあります。つまりそれは、かつて戦場となった沖縄に創設されたキリスト教学校として、武力放棄を教え、十字架の贖罪(罪のあがない)を通して人類を赦したイエス・キリストの教えを土台に「命の尊厳」を伝えてゆく教育であります。またそれは、学生、教職員の相互関係を大切にする教育でもあります。以上が講演の骨子ですが、金城先生ご自身、もう少し長く体験談をお話しされたかった様子でしたし、また聴くわれわれもそれをもっと詳しく拝聴したく感じました。

次に「閉会礼拝」では、宗教部長が今回のキャンプを総括しつつ、「愛に賭(か)ける」と題した説教を行いました。特にそこでは、部長がキリスト教の中心である「愛」(アガペー)の性質について新約聖書から学生達に判り易く語りました。

今回、新入生達は初めての体験ながらも、これら礼拝に積極的に参加しました。

そこではプロテスタント系キリスト教学校の礼拝がどのようなものか、体感して頂けたものと確信します。

また、本プログラムはその後に続く

「月曜礼拝」と「キリスト教学」の良い導入にもなったものと確信します。



▲開会礼拝の様子



▲礼拝でご講話いただいた金城重明先生を囲んで
(中原学長、金城先生、青野宗教部長)

●英語コミュニケーション学科「新入生オリエンテーション・キャンプ」(5月15日～17日)

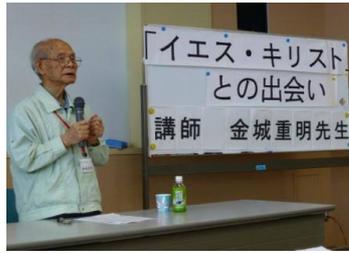
本プログラム初日は、宗教部長による開会礼拝に続き、金城重明先生による講演「イエス・キリストとの出会い」の時をもちました。金城先生は当時の皇民化教育で摺りこまれた鬼畜米英思想と「生きて俘虜(ふりよ)になるべからず」という軍命により渡嘉敷島にて凄惨な「強制集団死」が起こった経緯を簡潔に説明されました。その後テーマである「キリストとの出会い」について、ご自身の体験から穏やかながらも力強く証言されました。つまり、それは戦後の絶望の中での贖罪の体験を通しての出会いであったそうです。金城先生は「集団死」に関わった負い目から、イエス・キリストとの出会いがなければ自分は自殺したと断言されました。また全人類の罪を背負ったキリストの赦しのうちに、生きる希望を見出されたとも証言されました。最後に講演の総括として、「どう生きるか、どう生かすか、何を原点として生きるか」が人間の課題であると助言されました。金城先生にはこれまで何度か講演を担当して頂いていますが、そこまで赤裸々にご自分の信仰を証言されたのは、今回が初めてではないかと思えます。また講演に続き、フロアーの学生から当時のフラッシュ・バックはあるのか、とか世の中の時流、例えば現在の右傾化をどう読むか、という質問を受けました。金城先生はその1つひとつに丁寧に対応下さいました。

2日目の朝の「讚美礼拝」を宗教委員の糸洲理子先生の司会でを行いました。特に今回、聖書を1節ずつ司会者と聴衆(学生)で交互に朗読するという新しい方法をとりました。

3日目の朝は英語による「讚美礼拝」を Geoffrey Glyn 先生の司会、宗教委員の Daniel Broudy 先生の祈祷によって行いました。これも新しい試みであり、今後も継続してゆけることを願っています。最後に閉会礼拝では、

人文学部長金永秀先生から「我らは力に満ちて立ち上がる」と題するメッセージを頂きました。

全般的に天候に恵まれない中でのオリエンテーション・キャンプでしたが、各礼拝・講演に対する学生達の積極的かつ真剣な関わりがとても感じられ、とても有意義な時間を共有できました。学生達には今回のプログラムを契機に、



▲金城先生による講話



▲キャンプ参加者

「キリスト教、平和、沖縄」というテーマに関心を高めてもらえることを期待しています。

★★★夏期プログラムについて★★★

1. サマー聖書キャンプについて

宗教部では、夏季休暇中にサマー聖書キャンプを開催いたします。バイブル・スタディーや平和学習、福岡女学院大学学生との交流等のプログラムを企画しています。学科を問わずどなたでも参加できます。募集定員に達し次第終了しますので、参加希望の方は早めに宗教部へお申し込みください。

日程：2013年8月21日（水）～23日（金） -2泊3日

場所：本島中南部、渡嘉敷島

内容：バイブル・スタディー、グループ・セッション、平和学習（戦跡巡り等）、福岡女学院アワー、レク、海洋研修 他

参加人数：学生10名、教職員6名、福岡女学院大学学生4名 計20名

申し込み締め切り日：7月30日（火） 参加費：14,000円（**学生負担 5,000円**、学校負担9,000円）

申し込み先：宗教部（担当：松本真美）

※各自のメールボックスに入っている申し込み用紙に必要事項をご記入の上、参加費（5,000円）と併せてお申し込みください。

2. キリスト教主義大学学生による「沖縄・広島・長崎」学び合い（主催：沖縄キリスト教平和研究所）

日程：2013年8月26日（月）～8月29日（金）

場所：沖縄キリスト教学院、伊江島等でのフィールドワーク

参加費：10,000円 問い合わせ・申し込み先：沖縄キリスト教平和研究所

♪他大学の学生との交流会について♪

●大阪女学院大学 学生との交流会

日時：2013年9月10日（火）17時～

プログラム：夕食のタコライス作りと夕食をとり

ながらの交流会

場所：沖縄キリスト教センター ぎのわんセミナーハウス（宜野湾市志真志 4-24-7 [Tel:098-898-4361](tel:098-898-4361)）

※交流会への参加を希望される学生は、宗教部 松本真美 mami@ocjc.ac.jp までお問い合わせください。

●酪農学園大学 学生との交流会

日時：2013年9月17日（火）＊時間調整中

場所：沖縄キリスト教学院 SHAROM 会館

「キリスト教の紹介①—大学礼拝について—」

宗教部長 青野 和彦

●礼拝の意味と大学礼拝の位置付け

一般的に礼拝 (worship service) とは「超越者」である神を「おがむ」行いであり、宗教的行為の中心です。キリスト教育がキリスト教信仰を土台にして導かれる教育である以上、信仰が強制されることはないにせよ、その中心に「礼拝」が置かれることは重要になります。実際、日本のプロテスタント系大学では各学期に毎週1回から数回、礼拝が行われています。またカトリック系大学 (主に修道会が運営) でも学生・教職員を対象にしたミサ聖祭 (Mass) が定期的にまもられています。大学によっては単位化して学生に出席を義務づけている所もあれば、学生に出席を奨励しつつ自由参加にしている所もあります。

このように大学間で、礼拝の形態、週単位の実施回数等、若干の違いはありますが、どのキリスト教 (主義) 大学もそれを教育の根幹に据えている点で共通しています。



●大学礼拝の性質

大学礼拝の主な対象は、教会の場合が信者であるのに対し、キリスト教に初めて接する学生が中心となります。そこでは、建学の精神、聖書やキリスト教世界に関する知識、キリスト教的価値観の伝達という教育的要素が強調されます。またプロテスタント系大学の場合、普段の礼拝では教会の sacrament (聖餐式と洗礼式) も特別な機会を除いて (あるいは全く) 執行されません。但しそれは、聖書の言葉に基づく「説教」を中心に讃美と祈りを捧げる点では、教会の礼拝と本質的に変わりありません。また大学でも、礼拝をきっかけにキリスト教に関心を持つ学生への対応、信仰上の悩みの相談等、広い意味での牧会 (ミニストリー) が求められてきます。そして何よりも、大学礼拝は学生、教職員に対して神から「招かれた場」であることを覚えて下されば幸いです。

●礼拝の目標

では、大学礼拝は何を目標とするのでしょうか。それはキリスト教的価値観の伝達の過程の中で、学生達に神への「畏 (おそ) れ」を自然に身につけてもらうことにありましょう。つまりこれは、私たち被造物 (造られたもの) に対する愛と命の根源としての神を敬う心を育てることにあります。それはまた、神が人間となった (受肉した) イエス・キリストによる十字架での罪の赦しとそこから創出される「平和」に感謝することでもあります。この心を養うことによって、われわれは自己絶対化やかつての皇民化教育が強要したような国家への絶対的服従から精神的に解放され、よりブロードな視野から異文化を尊重し、そこに生きる人々と仕え合う関係を築くことができます。特に沖縄戦を経て建学された本学院における「月曜礼拝」は、その関係を築くことの意義を伝える場でもあります。また礼拝では、学生、教職員、関係者を覚えて祈ることも大切なつとめになります。たとえ祈れなくても、心を合わせることによって互いに興味をもって学生生活をおくることができるはずです。そしてこの心の修養こそ、プロテスタント系大学としての本学の教育、研究、管理・行政を支える基盤にもなるものと信じます。

「学生・教職員祈祷会」について御案内♪

宗教部では、毎月第四水曜日に、「学生・教職員祈祷会」を行っています。昼食を持参の上、気軽にご参加ください。

日 時：毎月第四水曜日

場 所：仲里朝章記念チャペル内 キリスト教文化研究所

★宗教部ニュースレターについての

問い合わせ等は下記まで

沖縄キリスト教学院 宗教部

発行：2013年7月

(098-946-4152 / shukyobu@oc.jc.ac.jp)

事務担当：松本真美